

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学演習IIA						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	浄瑠璃・歌舞伎の基礎研究1						
授業の概要	浄瑠璃と歌舞伎の交流は近世演劇史の重要なテーマである、しかし二つの芸能は残された資料の性質が異なり、研究は難しい。そこで浄瑠璃でも歌舞伎でも演じられる作品を取り上げ、その研究の具体例を考察する。前期は浄瑠璃を読む。						
到達目標	歌舞伎・浄瑠璃の基礎や実証的な研究方法について説明することができる。						
授業計画	第1回 浄瑠璃概説 第2回 浄瑠璃の正本 第3回 『国性爺合戦』 1 第4回 『国性爺合戦』 2 第5回 『国性爺合戦』 3 第6回 『仮名手本忠臣蔵』 1 第7回 『仮名手本忠臣蔵』 2 第8回 『仮名手本忠臣蔵』 3 第9回 『仮名手本忠臣蔵』 4 第10回 『仮名手本忠臣蔵』 5 第11回 『妹背山婦人庭訓』 1 第12回 『妹背山婦人庭訓』 2 第13回 『妹背山婦人庭訓』 3 第14回 浄瑠璃鑑賞 第15回 舞台の再現						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業を理解するために、指示する資料で近世演劇全般に関する知識を学ぶ必要がある。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表50% レポート50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学演習IIB						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	浄瑠璃・歌舞伎の基礎研究2						
授業の概要	浄瑠璃と歌舞伎の交流は近世演劇史の重要なテーマである、しかし二つの芸能は残された資料の性質が異なり、研究は難しい。そこで浄瑠璃でも歌舞伎でも演じられる作品を取り上げ、その研究の具体例を考察する。後期は歌舞伎を読む						
到達目標	歌舞伎・浄瑠璃の基礎や実証的な研究方法について説明することができる。						
授業計画	第1回 歌舞伎概説 第2回 歌舞伎の台帳 第3回 『国性爺合戦』 1 第4回 『国性爺合戦』 2 第5回 『国性爺合戦』 3 第6回 『仮名手本忠臣蔵』 1 第7回 『仮名手本忠臣蔵』 2 第8回 『仮名手本忠臣蔵』 3 第9回 『仮名手本忠臣蔵』 4 第10回 『仮名手本忠臣蔵』 5 第11回 『妹背山婦人庭訓』 1 第12回 『妹背山婦人庭訓』 2 第13回 『妹背山婦人庭訓』 3 第14回 歌舞伎鑑賞 第15回 舞台の再現						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業を理解するために、指示する資料で近世演劇全般に関する知識を学ぶ必要がある。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表50% レポート50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学史特殊講義A						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	枕草子の本文研究						
授業の概要	複雑に錯綜する枕草子の異本文間の相互関係について考えてみる。						
到達目標	枕草子の本文についての知見と認識を深める。						
授業計画	1 枕草子の章段の特性 2 枕草子成立の環境 3 枕草子の作者 4 枕草子の本文系統 5 「～は」型章段の本文異同について 第1回 6 「～は」型章段の本文異同について 第2回 7 「～は」型章段の本文異同について 第3回 8 「～もの」型章段の本文異同について 第1回 9 「～もの」型章段の本文異同について 第2回 10 「～もの」型章段の本文異同について 第3回 11 「～もの」型章段の本文異同について 第4回 12 随想的章段の本文異同について 第1回 13 随想的章段の本文異同について 第2回 14 随想的章段の本文異同について 第3回 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回、きちんと復習すること。						
授業方法	講義によるが、若干の講読をとまなう。						
評価基準と評価方法	平常点（50%）とレポート（50%）						
教科書	枕草子全段を収録する本であれば、何でもよい。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学史特殊講義B						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	枕草子の本文研究（続）						
授業の概要	複雑に錯綜する枕草子の異本文間の相互関係について考えてみる。						
到達目標	枕草子の本文についての知見と認識を深める。						
授業計画	1 枕草子の章段の特性 2 枕草子成立の環境 3 枕草子の作者 4 枕草子の本文系統 5 「～は」型章段の本文異同について（1） 6 「～は」型章段の本文異同について（2） 7 「～もの」型章段の本文異同について（1） 8 「～もの」型章段の本文異同について（2） 9 随想的章段の本文異同について 10 日記的章段の本文異同について（1） 11 日記的章段の本文異同について（2） 12 日記的章段の本文異同について（3） 13 日記的章段の本文異同について（4） 14 日記的章段の本文異同について（5） 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回、きちんと復習すること。						
授業方法	講義によるが、若干の講読をとまなう。						
評価基準と評価方法	平常点（50%）とレポート（50%）						
教科書	枕草子全段を収録する本であれば、何でもよい。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学特殊講義IA						
担当教員	田中 まき						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語文学の生成について						
授業の概要	平安時代に成立した『伊勢物語』を題材に、古典文学の特質を論じる。 先ず、『伊勢物語』がどのようにして生成され、どのように読まれてきたかを考察し、他文献との比較を通して、日本古典文学の生成の方法を明らかにしたい。 なお、写本や版本などの資料を示しつつ、書誌学的にも論じて行く。						
到達目標	物語文学の生成の様相を理解する。						
授業計画	第1回 物語文学について 第2回 歌語りと歌物語について 第3回 『伊勢物語』について 第4回 『業平集』について 第5回 『伊勢物語』伝本について① 第6回 『伊勢物語』伝本について② 第7回 『伊勢物語』伝本について③ 第8回 『伊勢物語』の生成について① 第9回 『伊勢物語』の生成について② 第10回 『伊勢物語』の生成について③ 第11回 『伊勢物語』の生成について④ 第12回 『伊勢物語』の増益について① 第13回 『伊勢物語』の増益について② 第14回 まとめと試験 第15回 『伊勢物語』の生成についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	『伊勢物語』の全体像が理解できるよう、各章段を読解しておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験 80% 授業に対する取り組み 20%						
教科書	「異本対照 伊勢物語」片桐洋一編(和泉書院)						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学特殊講義IB						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語文学の享受について						
授業の概要	平安時代に成立した『伊勢物語』を題材に、古典文学の享受について論じる。『伊勢物語』が平安時代に限らず、多くの読者を得ていた様相を明らかにし、また、『伊勢物語』のさまざまな注釈の影響のもとに多くの作品が生み出されたことを示して、古典文学の享受のあり方について論じたい。なお、写本や版本などの資料を示しつつ、書誌学的にも論じて行く。						
到達目標	物語文学の享受の様相を理解する。						
授業計画	第1回 『伊勢物語』の注釈について 第2回 『伊勢物語』の古注釈書① 第3回 『伊勢物語』の古注釈書② 第4回 『伊勢物語』の古注釈書③ 第5回 『伊勢物語』の和歌への受容① 第6回 『伊勢物語』の和歌への受容② 第7回 『伊勢物語』の和歌への受容③ 第8回 『伊勢物語』絵巻・絵本について① 第9回 『伊勢物語』絵巻・絵本について② 第10回 『伊勢物語』絵巻・絵本について③ 第11回 『伊勢物語』絵巻・絵本について④ 第12回 『伊勢物語』の謡曲への受容① 第13回 『伊勢物語』の謡曲への受容② 第14回 まとめと試験 第15回 『伊勢物語』の享受についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	『伊勢物語』の全体像が理解できるよう、各章段を読解しておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験 80% 授業に対する取り組み 20%						
教科書	「異本対照 伊勢物語」片桐洋一編(和泉書院)						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学特殊講義ⅢⅢA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の近代詩						
授業の概要	日本近代の詩人と、その詩作品の文学的影響、価値等を考察することにより、その現代的意味を問う。						
到達目標	近代詩を視座として日本近代文学の持つ意味を把握する						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代詩とは？ 第3回 近世以前の詩 第4回 明治十年代の詩 導入 第5回 明治十年代の詩 応用とまとめ 第6回 明治二十年代の詩 導入 第7回 明治二十年代の詩 応用 第8回 明治二十年代の詩 まとめ 第9回 明治三十年代の詩 導入 第10回 明治三十年代の詩 応用 第11回 明治三十年代の詩 まとめ 第12回 明治四十年代の詩 導入 第13回 明治四十年代の詩 応用 第14回 明治四十年代の詩 まとめ 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	一部に演習を含む講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%とレポート50%						
教科書	プリントを使用						
参考書	授業中に指示						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学特殊講義IIIB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の近現代詩						
授業の概要	日本近現代の詩人と、その詩作品の文学的影響、価値等を考察することにより、その現代的意味を真摯に問う。						
到達目標	近現代詩を視座として日本近現代文学の持つ意味を考える						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 大正時代の詩 導入 第3回 大正時代の詩 応用 第4回 大正時代の詩 発展 第5回 昭和ひとけたの詩 導入 第6回 昭和ひとけたの詩 応用 第7回 昭和ひとけたの詩 発展 第8回 昭和十年代の詩 導入 第9回 昭和十年代の詩 応用 第10回 昭和十年代の詩 発展 第11回 昭和二十年代の詩 導入 第12回 昭和二十年代の詩 応用 第13回 昭和二十年代の詩 発展 第14回 昭和三十年以降の詩 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について詳しく学習しておくことが肝要						
授業方法	一部に演習を含む講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%とレポート50%						
教科書	プリントを使用						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IA						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本語に似た日本語で書かれた『中華若木詩抄（ちゅうかじゃく）ぼくししょう』を1年間輪読し、現代日本語と古典日本語の共通点・相違点を学ぶ。						
授業の概要	この授業では、現代日本語と古典日本語の共通点・相違点を学ぶため、現代日本語によく似た日本語で書かれた『中華若木詩抄』を1年間輪読する。 『中華若木詩抄』とは、室町時代に多く著わされた、漢文の注釈書たる「抄物」の一種で、中国唐・宋の詩人および日本の禅僧が作った漢詩二百数十編の注釈書である。この注釈は17世紀中期の文章日本語で行なわれているが、現代日本語に似たところがあるので、古典日本語の初学者の学習に向いている（西日本方言話者は特に親しみやすいだろう）。この特徴を活かして、日本語の歴史を楽しく学んでいく。						
到達目標	古典の読み方を知る。 古典日本語の知識を身に付ける。 現代日本語と古典日本語の共通点・相違点を知る。						
授業計画	<p>【1: オリエンテーション】</p> <p>【2-5: チュートリアル】</p> <p>2: 漢詩と注釈の概要を理解する。 3: 中華若木詩抄の本文を電子化し、文節単位で現代語訳を付ける。 4: 難解語に注釈を付ける。 5: 構造の複雑な文節を分析し、注釈を付ける。</p> <p>【6-10: 輪読 (1)】</p> <p>6: 学生の発表と発表内容に関する議論 (1) 7: 学生の発表と発表内容に関する議論 (2) 8: 学生の発表と発表内容に関する議論 (3) 9: 学生の発表と発表内容に関する議論 (4) 10: まとめ</p> <p>【11-15: 輪読 (2)】</p> <p>11: 学生の発表と発表内容に関する議論 (5) 12: 学生の発表と発表内容に関する議論 (6) 13: 学生の発表と発表内容に関する議論 (7) 14: 学生の発表と発表内容に関する議論 (8) 15: まとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	『中華若木詩抄』の日本語を分析し、発表資料を作成する。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	発表（40点）、議論（20点）、言語研究レポート（40点）の合計点						
教科書							
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IB						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本語に似た日本語で書かれた『中華若木詩抄（ちゅうかじゃく）ぼくししょう』を1年間輪読し、現代日本語と古典日本語の共通点・相違点を学ぶ。						
授業の概要	この授業では、現代日本語と古典日本語の共通点・相違点を学ぶため、現代日本語によく似た日本語で書かれた『中華若木詩抄（ちゅうかじゃく）ぼくししょう』を1年間輪読する。 『中華若木詩抄』とは、室町時代に多く著わされた、漢文の注釈書たる「抄物」の一種で、中国唐・宋の詩人および日本の禅僧が作った漢詩二百数十編の注釈書である。この注釈は17世紀中期の文章日本語で行なわれているが、現代日本語に似たところがあるので、古典日本語の初学者の学習に向いている（西日本方言話者は特に親しみやすいだろう）。この特徴を活かして、日本語の歴史を楽しく学んでいく。						
到達目標	古典の読み方を知る。 古典日本語の知識を身に付ける。 現代日本語と古典日本語の共通点・相違点を知る。						
授業計画	<p>【1-5: 輪読 (3); 前期からの続き】</p> <p>6: 学生の発表と発表内容に関する議論 (9)</p> <p>7: 学生の発表と発表内容に関する議論 (10)</p> <p>8: 学生の発表と発表内容に関する議論 (11)</p> <p>9: 学生の発表と発表内容に関する議論 (12)</p> <p>10: まとめ</p> <p>【6-10: 輪読 (4)】</p> <p>6: 学生の発表と発表内容に関する議論 (13)</p> <p>7: 学生の発表と発表内容に関する議論 (14)</p> <p>8: 学生の発表と発表内容に関する議論 (15)</p> <p>9: 学生の発表と発表内容に関する議論 (16)</p> <p>10: まとめ</p> <p>【11-15: 輪読 (5)】</p> <p>11: 学生の発表と発表内容に関する議論 (17)</p> <p>12: 学生の発表と発表内容に関する議論 (18)</p> <p>13: 学生の発表と発表内容に関する議論 (19)</p> <p>14: 学生の発表と発表内容に関する議論 (20)</p> <p>15: まとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	『中華若木詩抄』の日本語を分析し、発表資料を作成する。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	発表 (40点), 議論 (20点), 言語研究レポート (40点) の合計点						
教科書							
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義IIA						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の疑問文の研究						
授業の概要	この講義では、日本語に関する研究のうち、特に疑問文に関する研究を取り扱う。担当者はそれらの文献を要約し発表する。他の受講生は事前に文献を読んでおき、疑問点や問題点を考えておく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究に対して批判的な目を持ち、問題点を見つけることができるようになる。 ・疑問文に関わる事象に対する理解を深め、独自の視点で考察ができるようになる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 疑問文研究の概観 第3回 日本語の疑問文の研究 (1) 第4回 日本語の疑問文の研究 (2) 第5回 日本語の疑問文の研究 (3) 第6回 日本語の疑問文の研究 (4) 第7回 日本語の疑問文の研究 (5) 第8回 日本語の疑問文の研究 (6) 第9回 日本語の疑問文の研究 (7) 第10回 日本語の疑問文の研究 (8) 第11回 日本語の疑問文の研究 (9) 第12回 日本語の疑問文の研究 (10) 第13回 日本語の疑問文の研究 (11) 第14回 日本語の疑問文の研究 (12) 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	発表を担当する場合は必ずレジュメ(配布資料)を作成すること。また、発表を担当しない場合でも必ず文献を読んでおくこと。						
授業方法	第1回、第2回、第15回は講義形式。その後は演習形式で行う。						
評価基準と評価方法	発表内容40%、演習への参加度30%、レポート30%						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義IIB						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の方言終助詞の研究						
授業の概要	この講義では、日本語に関する研究のうち、特に方言終助詞の分野に関する研究を取り扱う。担当者はそれらの文献を要約し発表する。他の受講生は事前に文献を読んでおき、疑問点や問題点を考えておく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究に対して批判的な目を持ち、問題点を見つけることができるようになる。 ・方言終助詞研究に対する理解を深め、独自の視点で考察ができるようになる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 (方言) 終助詞研究の概観 第3回 日本語の方言終助詞の研究 (1) 第4回 日本語の方言終助詞の研究 (2) 第5回 日本語の方言終助詞の研究 (3) 第6回 日本語の方言終助詞の研究 (4) 第7回 日本語の方言終助詞の研究 (5) 第8回 日本語の方言終助詞の研究 (6) 第9回 日本語の方言終助詞の研究 (7) 第10回 日本語の方言終助詞の研究 (8) 第11回 日本語の方言終助詞の研究 (9) 第12回 日本語の方言終助詞の研究 (10) 第13回 日本語の方言終助詞の研究 (11) 第14回 日本語の方言終助詞の研究 (12) 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	発表を担当する場合は必ずレジュメ(配布資料)を作成すること。また、発表を担当しない場合でも必ず文献を読んでおくこと。						
授業方法	第1回、第2回、第15回は講義形式。その後は演習形式で行う。						
評価基準と評価方法	発表内容40%、演習への参加度30%、レポート30%						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育演習A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および関連領域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ、活用していくことを念頭に、日本語および日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的に母語である「日本語」を観察することができる。 ・日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。 ・日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。 						
授業計画	第1回 インTRODクシヨN 第2回 認知 第3回 認知言語学 第4回 カテゴリー化 第5回 プロトタイプ 第6回 家族的類似性 第7回 スキーマ 第8回 言語カテゴリー 第9回 多動性と動作主 第10回 構文 第11回 多義性 第12回 メタファー・メトノミー 第13回 オノマトペ 第14回 言葉の変化 第15回 日英対照研究						
授業外における学習（準備学習の内容）	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。						
授業方法	講義＋演習（発表を含む）						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。 発表；授業参加・積極性：60% 課題あるいはレポート：40% 						
教科書	必要に応じてプリントを配布						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および関連領域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ、活用していくことを念頭に、日本語および日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	客観的に母語である「日本語」を観察することができる。 日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。 日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 SLA研究とはどんな学問か 1 第3回 SLA研究とはどんな学問か 2 第4回 先行文献をいかに読んでテーマを設定するか 1 第5回 先行文献をいかに読んでテーマを設定するか 2 第6回 リサーチプランをいかに作成するか 1 第7回 リサーチプランをいかに作成するか 1 第8回 心理言語学的SLA研究データにはどのようなものがあるか 1 第9回 心理言語学的SLA研究データにはどのようなものがあるか 2 第10回 実験実施とデータ集計をどのようにして行うか 1 第11回 実験実施とデータ集計をどのようにして行うか 2 第12回 実験実施とデータ集計をどのようにして行うか 3 第13回 実験実施とデータ集計をどのようにして行うか 4 第14回 第二言語習得研究の目的は 1 第15回 第二言語習得研究の目的は 2						
授業外における学習（準備学習の内容）	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。						
授業方法	講義＋演習（発表を含む）						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。 発表：授業参加・積極性：60% 課題あるいはレポート：40%						
教科書	必要に応じてプリントを配布						
参考書	授業中に紹介する						